

札幌経済の未来を描く

さっぽろ産業振興財団

札幌未来牽引企業創出事業

札幌から世界へシュート。一般財団法人さっぽろ産業振興財団（秋元克広理事長）による創業支援や中小企業サポートが光を放っている。中でも「札幌未来牽引企業創出事業」の枠組みでは札幌未来牽引企業（SAPPORO NEXT

LEADING企業）に二つのコースを設け、継続的に集中支援を続ける。目標達成に向かう10社をピックアップして紹介する。
（各社紹介の文末は①本社住所②創業または設立年③代表者名）

地域経済活性化の主役

札幌未来牽引企業は、今後、札幌の経済を担い地元産業界をリードしていく可能性と意欲を持つ中小企業を広く公募し決めるもの。「付加価値向上コース」と「上場支援コース」の二つを用意し、付加価値向上コースではサポート開始から5年以内に付加価値額（営業利益十人件費十減価償却費）を当初より1・2倍に引き上げたい企業が対象。一方の上場支援コースは、支援開始から5年以内に新規の株式上場を目指す。どちらも事業内容は当然ながら、地域への貢献度や計画の実現可能性、さらに上場後の成長可能性も見据えた上で採択対象の企業が決まる。

対象企業が決まると、一般財団法人さっぽろ産業振興財団はコース別に①付加価値向上に向けた事業計画の策定支援②計画の推進に向けた伴走支援③上場準備に向けた課題診断④課題解決に向けた伴走支援を、連携企業とともにそれぞれ行っていく。選択企業の数はどちらのコースも最大で10社、合わせて最大20社以上。

財団では対象企業に寄り添うからで各社を積極的に外部へPRし、各種の勉強会や交流会などにも積極的な参加を促し、人的なネットワークの構築をサポートする。

企業の挑戦を 全力でバックアップ

上場支援コース



システム統合に定評

異なる基本ソフト（OS）上でもアプリケーションを動かす、いわゆるクロスプラットフォーム対応技術を核に、顧客企業のシステムインテグレーション（システム統合）を進める。モバイルアプリの開発では全国屈指の実績をもつ。

今年7月、北九州市に進出。外国国籍の十人材受け入れ拠点とし、地元事業者の課題に直接アプローチする。地産地消型デジタルソリューションプロバイダーを実現する。

オープンソースであるReact NativeやFlutterなどの先端フレームワークを駆使して、顧客の課題を解決する。

①札幌市中央区南3西10の100番地の1番地
5、福山南三条ビル②2011年6月③西嶋裕一



ファーストコネクト

歯科医療向け人材紹介サービス

新規開院のペースが鈍り始めたといえ、全国にある歯科医院の数は約6万7000軒（厚労省調べ）に上る。全国のコンビニの数がより一万余も多い。ここにスポットを当てたのが「歯科医療従事者向け人材紹介サービス」だ。

「歯は健康生活の基礎。高齢化社会になればさらに需要が高まる」とは宮副俊彦社長。歯科医院と歯科衛生士との高精度なマッチングによって、瞬く間に日本トップシェアの地位に着き、積極的なAI・AI活用で次の成長を見据える。さらに介護や看護師についても同様のサービスを展開中。高い評価を受けている。

①札幌市中央区北1西5の2、札幌興銀ビル6F②2014年4月③宮副俊彦 荒木一人



ロケット大量生産 視野に

わずか5年前の設立ながら、世界でも数少ない研究開発を続けるのがこの新進企業だ。ロケットに使用する燃料タンクを無溶接（継ぎ目無し）で加工する技術と、固体のプラスチック燃料と液体酸素を燃焼させるハイブリッドタイプのエンジンの開発を進める。どちらも市場投入への準備が着々と進んでいる。北海道大学工学部の永田晴紀研究室による研究がスタートアップ企業の登壇に結び付いた。

二つの技術は「安全性やコストで他を引き離している（鈴木厳管理部長）。ロケットの大量生産が現実になる日も間近だ。」

①札幌市北10西3の1の1、Noble Pore S.A.P. 2020年1月③ビスコア・トル



メカノクロス

脱炭素化・溶媒削減を実現

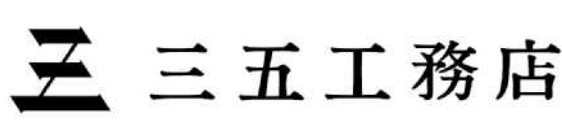
医薬や化学品の製造に広く使われてきた有機化学合成を、環境に優しいメカノケミカル有機合成に置き換え、脱炭素化と溶媒削減を実現する。それがメカノクロスの事業だ。

従来法は有機溶媒を大量に使用し、それらを廃棄・焼却する過程で多量の二酸化炭素を排出する。メカノケミカル有機合成技術は、機械的攪拌と独自の反応設計で製造プロセスの課題を解決し、環境調和型ソリューションともいわれる。

すでに十数社との協業などもある。世界にシフトする新技術の登壇が目前に迫っている。

①札幌市北10西21の10、北海道大学化学反応創成研究拠点内②2023年11月③齋藤智久

付加価値向上コース



三五工務店

小樽市春香町に完成した滞在型複合施設「山郷」がそれ。同社が考える理想の北海道暮らしをここで実体験できる。眼下には雄大な広がる日本海。自然と共にある北の暮らしを提示する。

①札幌市北10西10の6の21②1958年③田中裕基



技術力に高い評価

公営住宅管理システム「住まいる8」（住まいる）や看護師勤務表作成システム「セルビスEX」（セルビス）などのパッケージソフト開発が主力。住みいるは全国の約3000団体、セルビスも全国の2000医療機関で導入されており、北海道のみならず全国的にも高い評価を得ている。

「両製品ともに最初のリリースから30年が経過し、ブラッシュアップは当然ながら、要望に応じた改良は常に行っている」（中村直樹社長）とのこと。絶え間ない技術力アップの努力が高評価に結実している。

①札幌市中央区大通西8丁目2番地、住友商事・フカミヤ大通ビル2F②1998年8月③中村直樹



ベル食品

北海道民であればラーメンスープ「華味」や「成吉思汗」（ジンギスカン）たれを思い浮かべる人は多い。どちらもベル食品が生んだ北海道のソウルフードである。

戦後間もないころ北海道大学農学部卒の卒業生らが興した北共化学を原点に、現社長は7代目だ。「北海道に」だけでなく安全で安心できる食品づくりを続ける。毎年、コンスタントに十数種類の新しい商品を生み出している。

調味料、レトルト食品、スイーツなど1700種の商品群を揃え、全国からのプライベートルランド商品やOEM（相手先ブランド生産）製造の依頼にも対応する。歴史と高い技術力がここに結実している。

①札幌市西区二十四軒3の7の3の35②1947年③福山浩司



MORITA

紙の箱と云っても単なる商品箱を包む箱、ではない。日本酒やウイスキー、香水などの高級品となればパッケージ化する箱がブランドイメージの重要なポジションを担うからだ。

「紙であるがゆえに製法も工法も独特で新しいものが要求される」（近藤篤祐社長）。

地元デザイナーとの協業によるチームワークの強さは他の追随を許さない。

①札幌市白石区中央2条3丁目2番17号②1932年5月創業③近藤篤祐



横山製粉株式会社

北海道を代表する製粉企業として創業100周年を視野に入れた。堅実と誠実をそのまますく現化したような北海道企業である。

あくまでも北海道産の原材料にこだわって生み出す小麦粉、そば粉、石臼粉、プレミックス粉の製造と販売を事業の核に据える。「オール北海道」を基本とし、小麦粉製造においては北海道産原料の加工比率が80%を超えている、という。

次の柱に育てようとするスペシャルティイグレイン事業に着手。北海道内の生産者によるスペルト小麦やもち麦などを使った新しい自社ブランドで、老舗の立場に甘んじない姿勢を打ち出している。

①札幌市白石区平和通5南2の1②1946年2月設立③横山敏章



リュツ

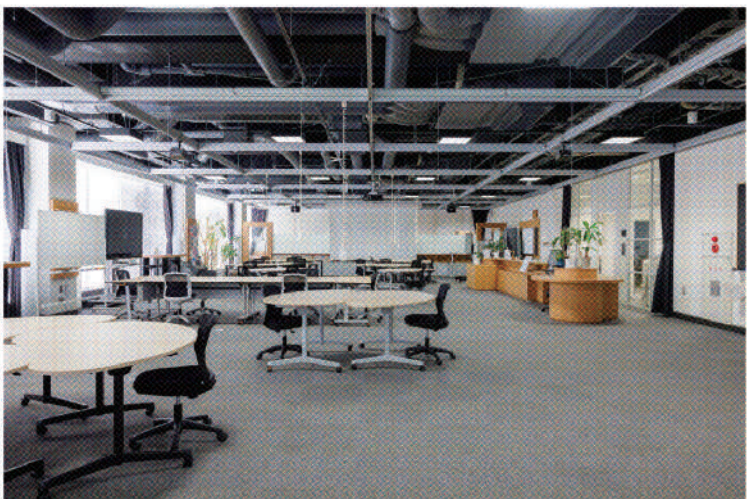
安全と命を守る車のよろず屋

「私たちは車のよろず屋。安全と命を守るこの仕事に大きな責任を背負っている」（小川信明社長）。人口が減った、若い人が車に乗らなくなったなどと言われて久しい。それでも変わらないのは物流のかなめとなるのは車であるということ。だからこそ「札幌の物流を当社が守る」との言葉に説得力がにじむ。

札幌市を中心に現在3店舗、5整備工場を網羅。一般乗用車から大型車までなんでも引き受けるが、その中でも強みを発揮するのはバスやトラックなどの大型車。広さの高さを備える工場で、年間2万台を超える整備を完了させる。

①札幌市白石区流通センター15丁目4の25②1973年11月③小川信明

“したい”を支える相談場所。



一般財団法人
さっぽろ産業振興財団

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1
TEL 011-820-3533

<https://www.sec.or.jp/>

